



NPO法人
日本セラプレイ協会
"だいずきがつながっている"

NPO法人日本セラプレイ協会とは

日本セラプレイ協会（Theraplay® Japan Association）は、遊びを通じて親子・家族の絆を育む「セラプレイ（Theraplay®）」の実践と普及を目指す非営利団体です。2011年設立。米国Theraplay Institute公認のもと、セラプレイの研修・認定・臨床を行い、全国のセラピスト・支援者と連携しています。米国Theraplay Institute認定団体として、国際基準に沿った研修と支援を提供しています。



アクセス

東京都 世田谷区 下北沢

NPO 日本セラプレイ協会
セラプレイカウンセリングセンター東京

〒155-0032 東京都 世田谷区 代沢
10時～18時

<http://theraplay.jp>
<http://theraplay.or.jp>

無料ZOOM相談受付中！
詳しくはHPへ



本事業は、令和7年度 東京都「子供が輝く東京・応援事業」補助金に採択されました。

「どう接したらいいのか、わからない」
「本当の親じゃないから…と距離を感じてしまう」
「いい家庭に迎えたつもりだったのに子どもが心を開いてくれない」
——そんな思いを抱えながらも、
日々子どもと向き合っている里親の方は少なくありません。



理解と希望の視点を

子どもと向き合う毎日に

まなざしの土台プログラム

子どもの眼で世界を観る実践探究

×

セラプレイ
Theraplay®

特定非営利活動法人 日本セラプレイ協会





セラプレイとは？

セラプレイは、「関係性」に焦点をあてた心理的支援です。
 子どもと大人が遊びを通して、安心・信頼・喜びを感じ合う時間を積み重ねながら、心のつながりを深めていきます。
 決まった遊び方を教えるのではありません。
 子どもが今、どんな気持ちを心の奥に抱えているのかを、セラピストがともに見つめ、感じ、理解するプロセスを大切にします。
 成長に合わせたあそびと学びで、「やりたい！」を引き出します。

なぜセラプレイが里親家庭に必要なのか？

里親家庭には、特有の関係の築き方があります。
 子どもが抱えてきた過去の体験。
 言葉にできない不安や怒り。
 そして、親として「ちゃんと育てたい」という願い。



セラプレイでは、

- 子どもとの“今”の関係に目を向け
- 過去ではなく“今ここ”での絆を育て
- 大人自身も自分の心に気づきながら関わる力を高めていきます

セラプレイは、子どもと大人、両方に寄り添います。

セラプレイでは、子どもとの遊びの時間だけでなく、保護者との振り返りや面談や体験も大切にしています。
 「この関わり方でよかったのか」「子どもの本当の気持ちはなんだろう」そんな不安に、専門家が一緒に考え、寄り添い、力を合わせていきます。
 一時的な改善ではなく、人生をともに歩む関係を育む支援です。

『意思の疎通が難しかった娘が、最近では「ママだーいすき！！」と言いながら私の背中に乗ってきて楽しく遊べるようになりました。問題を見る視点ばかりでなく別の見方を理解することができるというのは本当に大切なことだと思います。私のような母親で子どもに申し訳なく、やり直したいと思うところもありますが、気づきを得て、また上書きを繰り返してという中で親子の絆は深まるのかなとも思います。』

(年長女児の母親より)

体験したの方の声



『幼児期より場面緘黙 登校が困難に…セラプレイに出会ったのは5年生の時。外で話さなかった彼が、セラプレイではすぐに話をしたので驚きました。外出自体大変で家庭内でも色々。6年生から少しずつ学校に行き始め、今は中学校に通っています。学校に行かせることをゴールにはしていませんでしたが、最近「これは自分で決めたから嫌だけどやる」と話すこともあり、少しずつ“自分のことを自分で決める”という意識が育ってきているのを感じます。家族で、夫婦で、一人で…たくさん話し合いを繰り返しました。今はラインで時々相談程度です。今のところ息子とは心地よい距離感で過ごせているように思います。』

(11歳男児の母親より)

《安心してご相談ください》

私たちは、子どもと家族を応援します。
 「引き離されるのでは」と不安を抱える必要はありません。
 安心してご相談いただけるよう配慮しています。
 ここは、「親子の関係性」を育む場所です。



詳しくはお気軽にお問い合わせください。

Mail: info@theraplay.jp

子どもの眼とは？

子どもの眼で世界を観る実践探究



「どうしてこの子は、こんなふうに反応するのだろうか」
 「自分の育て方が間違っているのではないか」
 「子どものために、何が正しいのか分からない」
 そう悩むのは、子どもを大切に思っている証拠です。
 でも、答えはすぐには見つからないかもしれません。
 『子どもの眼』は、“理解するための視点”を育てる探究の時間です。



行動には「理由」がある



大人の目には
 「困った行動」と見えることも
 子どもにとっては「必死の表現」
 であることがあります。
 なぜ、そうふるまうのか。
 何を伝えようとしているのか。

『子どもの眼』では、子どもの行動を「問題」として切り離すのではなく、その背景にある“関係性”や“心の声”に耳を傾ける視点を学んでいきます。



答えではなく、「問い」を持つ力

『子どもの眼』は決まった“正解”を教えるものではありません。
 子どもと過ごす日々の中で、自分の感じ方・受け止め方を見つめ
 「自分は何を感じているのか」
 「なぜ、この関わりがつかないのか」と、親自身の気持ちにも目を向けていく時間です。
 あなた自身の「まなざし」が変わることで、子どもとの関係も少しずつ変わっていきます。

